

静岡仁摩道路建設予定地内

古屋敷遺跡現地説明会資料

平成 26 年 11 月 8 日 (土)
島根県埋蔵文化財調査センター

1. 古屋敷遺跡 (大田市仁摩町大国)

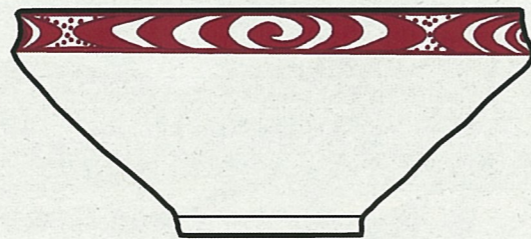
- ・仁摩平野に位置する、縄文時代晩期から弥生時代前期を中心とする遺跡です。平成 25 年度の調査で、縄文時代晩期の木棺墓、県下 2 例目となる彩文土器などの多様な遺物、遺構が出土しています。

2. 今年度の調査成果

- ・縄文時代晩期 (約 2900 ~ 2800 年前) の水さらし場遺構を検出しました。西日本では 4 遺跡目、山陰地方では初めての発見です。
- ・新たに縄文時代晩期 (約 2600 ~ 2500 年前) の木棺墓を 1 基検出しました。昨年度検出の 1 基と合わせ、2 基目の発見です。縄文時代の木棺墓は中国地方で 2 遺跡目、山陰地方では古屋敷遺跡が唯一です。
- ・縄文時代晩期の 100 箇所を超える地床炉 (じしょうろ・火を焚いた痕跡) や多数の土器・石器類が出土しています。縄文時代晩期頃を中心に、この地に断続的に集落が営まれていたことが明らかになりました。
- ・縄文時代晩期 (約 2800 ~ 2700 年前) の彩文土器 (さいもんどき) が新たに 2 点出土しました。

★彩文土器

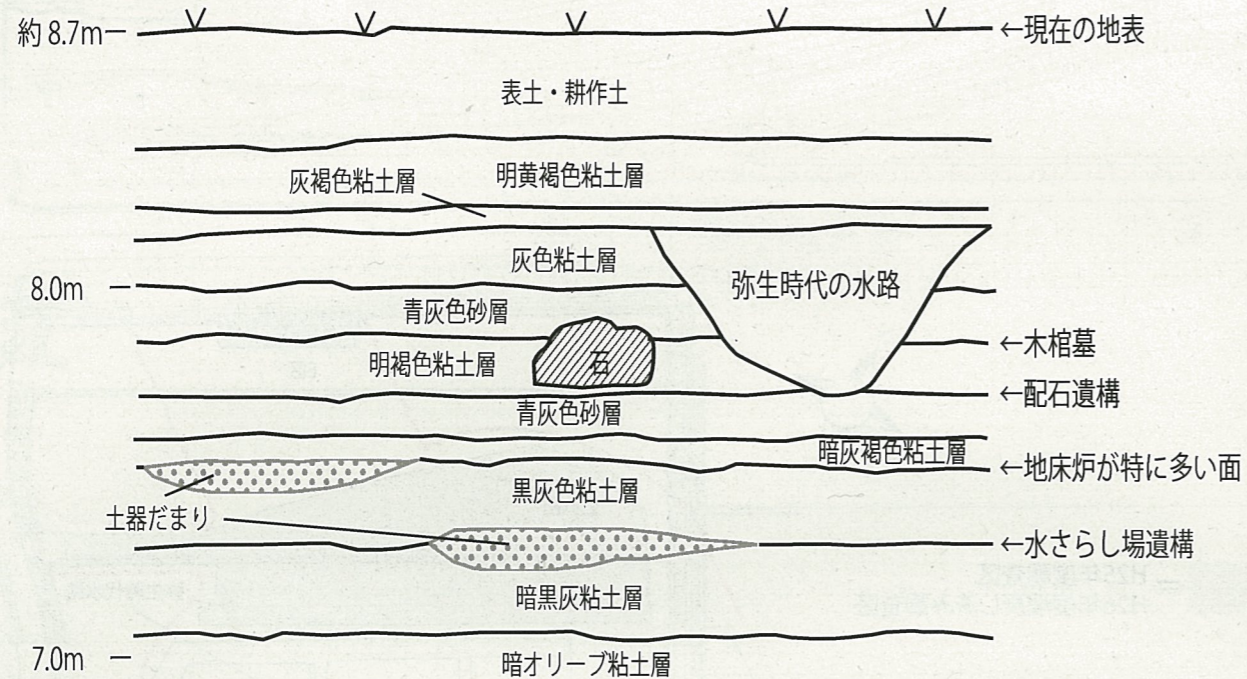
- ・古屋敷遺跡出土の彩文土器は、東日本の土器に表現される赤色顔料を用いて彩色された「C 字形」の文様が施された浅鉢です。県内では他に万場 (まんば) 1 遺跡出土例が知られているだけです。
- ・縄文時代の古屋敷遺跡には、日本海を介して列島各地との幅広い交流があったことが想定されます。



古屋敷遺跡出土彩文土器想像図



古屋敷遺跡の土層模式図



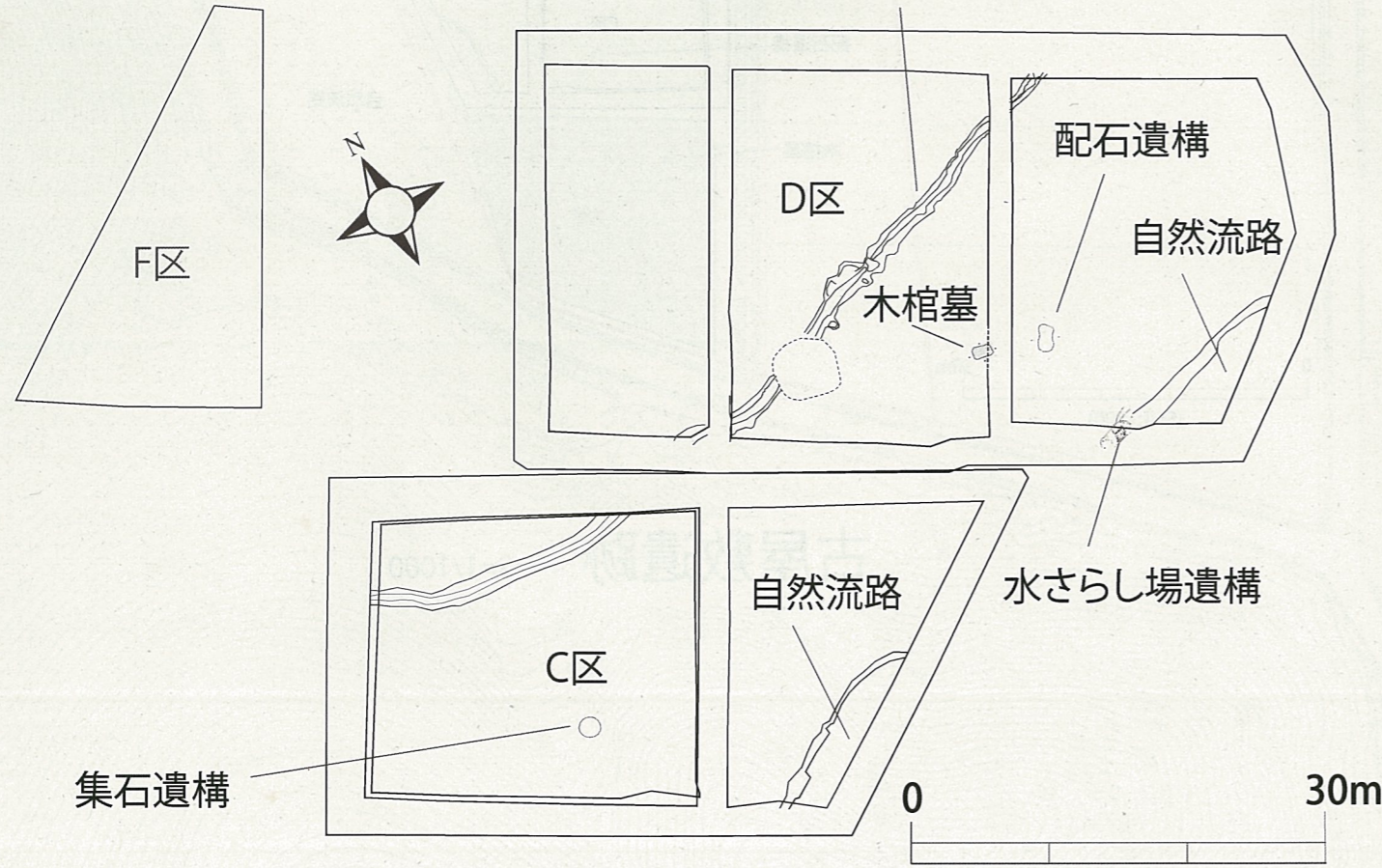
木棺墓（調査済）約 2600～2500 年前
 ★土坑の規模：長さ約 130 cm、幅約 80 cm、深さ約 30 cm
 ★木棺の規模：長さ約 110 cm、幅約 50 cm、高さ約 30 cm
 縄文時代晩期の木棺墓で、側板や底板などの板材が良好に残存しており、側板や小口板は要所に打ち込まれた杭により固定されています。
 縄文時代の木棺墓は御堂遺跡（山口県）に次いで 2 遺跡目です。（古屋敷遺跡では昨年の 1 基と合わせ 2 基目）



配石遺構（はいせきいこう・調査済）
 長さ約 2m、幅約 1.1m にわたって石がまとめて並べられた遺構です。南端に位置する 1 石のみが立てて据えられています。配石の下に土坑等はなく、その用途は不明ですが、祭祀等の特別な目的があったものと考えられます。

県内では他に 32 遺跡で検出されていますが、益田市 匹見町や奥出雲町などの山間部に多く、古屋敷遺跡のような沿岸部では多くは知られていません。

弥生時代の水路



水さらし場遺構 約 2900～2800 年前
 自然流路の岸辺に、丸木を 50cm×70cm の枠状に組んで作られており、新鮮な水を供給する水路が付属しています。木枠内からはトチの実やクルミの実が出土しており、これらを水漬けにして、アク抜きや種皮をふやかすための施設と考えられます。
 水さらし場遺構は東日本に多く、西日本ではカクシクレ遺跡（岐阜県）、四方谷岩伏（しほうだにいわぶせ）遺跡（福井県）、観音寺本馬（かんのんじほんま）遺跡（奈良県）に次いで 4 遺跡目です。



地床炉（じしょうろ）
 焼土や炭が集中する、火をたいた痕跡です。今年度の調査だけでも 100 箇所を超える地床炉が検出されており、調査区全体に点在しています。縄文時代晩期の土層内に幾重にも重なって検出されることから、この地に断続的に集落が営まれていたことが分かります。